

NPO法人 千葉自然学校 令和3年度 事業計画

はじめに

昨年6月の総会では、新型コロナウイルスの影響で厳しい状況をお伝えしたところですが、それから9ヶ月経過した現在はさらに厳しい社会情勢となっています。

理事、会員の皆様には、日ごろより、NPO 法人千葉自然学校の運営にご尽力いただき感謝申し上げます。

では、現在の状況について、少しご報告申し上げます。

6月以降は、8月までコロナウイルス感染の第1波が落ちてきている状況でしたが、夏休みの子どもを対象としたキャンプを企画し、実施する際に、3密を避け、手洗い、うがいの徹底をするとともに、例年の定員の半分にして募集しました。また、学校の休校に伴い、夏休みが短縮したことから、キャンプの本数も半分に減ってしまいました。

しかし、夏のキャンプを待ちわびていたのか、募集人数も少なかったこともあり、あっという間にキャンセル待ちになるほど盛況でありました。

また、12月のスキーキャンプは、Go To トラベル停止ということもあり、3コースのスキーキャンプが中止となり、実施できたのは2コースでありました。しかし、スキーキャンプについても、参加者のニーズは高く、どのコースも定員に近い応募がありました。さらに、令和3年1月8日からの緊急事態宣言を受け、青少年教育施設の受け入れや主催事業など、1月の事業はほぼ中止となりました。千葉自然学校にとって、この一年は本当に苦しい時間でありました。

さて、そのような状況の中で、見えてきたものもあります。新型コロナウイルスの影響で、人々の行動が制限され、ストレスが高まり、開放的な「アウトドア」という空間の魅力や大切さに気がつき始めていると感じます。

屋外で自然体験することのすばらしさ、人と人とのつながりの尊さなど、私たちが守り、提供し続けていかなければならないと強く感じました。そのためには、マスクの着用や手洗いうがいの励行やプログラムを実施する際に密集しないようにソーシャルディスタンスをしっかりと取るなどの対策を行い、コロナウイルス感染予防を徹底しながら、安全に留意し自然体験活動を行なう必要があります。

昨年11月～12月にかけて、NPO 法人千葉自然学校の会員校を訪問させていただきました。私が理事長になってから、台風の被害や新型コロナウイルスなどの影響によって、皆様方のところに行くことができませんでした。

今回、皆様方の施設や事務所にお伺いし、現場を見せてもらいながら、臨場感あふれるお話を聞くことができたことは、本当にうれしいことでした。

滞在時間は、1時間から1時間半くらいでしたが、いずれの会員校でも、話は尽きることなく、いつまでも話したいと、後ろ髪をひかれる思いで、お暇したことを思い出します。

もう一つ、報告事項がございます。千葉県から指定管理を受けている、千葉県立君津亀山少年自然の家の委託期間が今年度終了に伴い、再度委託申請をしていたとこ

ろ、次期5年間の指定管理を受託することとなりました。これも皆様のお陰と感謝申し上げます。

最後に、千葉自然学校のミッションをふまえ、コロナ禍ではありますが、感染予防を徹底しながら、安全に留意し、令和3年度の自主事業や委託事業、CSR活動事業、教育事業などを実施してまいりたいと思います。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

■事業部

・CNS自主事業

1. コロナ禍における新たな生活様式に対応し、親子日帰り事業を増やしての展開と、顧客拡大を目指し、中学生も募集対象に加える。
2. 大人(シニア)を対象に各世代のニーズを捉え、地域特性と地域人材を活かした自然体験活動を展開する。
3. ひとりでも多くの子どもへ自然体験活動の機会を提供するため、新規エリアの学校や教育委員会と連携を図り、学校ポスト等を活かした広報活動を目指す。
4. 安全で質の高い体験活動の提供を目指し、ボランティアリーダー指導養成講座を定期的に開催。

・受託事業

1. ウィズコロナの新たな需要を捉えた事業展開、教育旅行・企業研修・CSR活動を中心とした新規事業開拓。
2. 新たな需要に対応するための人材育成及び外部連携の推進。
3. ネットワークを活かした協働・連携による事業展開の充実。
4. 災害復興、災害教育、地域課題をテーマとした企業、学校向けの事業提案。

・千葉県立君津亀山青少年自然の家(2021年4月～2026年3月末)

1. 地域や会員校との連携による生涯学習センターとしての機能充実。
2. 利用者満足度向上によるリピーター団体の増加。
(宿泊者数目標 10,000人)
3. 森や川など施設周辺の自然環境を活かしたプログラム開発。
4. コロナ禍における新たな利用形態の構築(家族対象、出前事業など)。

・南房総市大房岬自然の家(2018年4月～2023年3月末)

1. 困難な課題に向き合える質の高い自然体験プログラムの提供。
(宿泊者数目標 13,000人)
2. 地域連携と経済波及効果を意識した運営。
3. 効率的な施設の維持管理と運営。
4. 自然災害に備えた施設運営やボランティアネットワークの運営。
5. 地域の資源を活用した持続可能な観光に寄与するプログラム開発と人材育成。

・千葉県立大房岬自然公園(2017年4月～2022年3月末)

1. 台風や病害虫によりダメージを受けた樹木を適宜管理し、大房岬の次世代の森

- づくりを行う。
2. 深い森と豊かな海を有し、歴史ある戦争遺跡もあるというフィールドの特性を生かした事業の企画、運営。
 3. 平日や冬期の集客を行う事によるキャンプ場利用数の拡大。
(キャンプ場張数目標 3, 660張)
 4. 地域住民の利用やスポーツイベントの開催、撮影団体の利用など様々なニーズの公園利用に対応する。

■地域協働事業部

・ちば・体験活動ネットワーク事業

SNSを活用した会員校の広報とちばアウトドアフォーラムの推進組織として、理事、会員校、新規体験事業者、県内の若手事業者、個人で構成される実行委員会の運営事務局を担う。

1. 会員校のSNS記事(活動報告、参加者募集)を当校のSNSで随時シェア(拡散)する。
2. ちばアウトドアフォーラム2021の事務局機能を担う。
3. 千葉県内の体験活動団体の相談窓口として役割を担い、必要に応じた対応、助言を行う。

・古民家ろくすけ事業プロジェクト

当校のシンボルタワーとして維持継続するとともに、事業を以下のように行なう。

1. 古民家ろくすけの企画・管理・運営ができる人材の育成。
2. 農泊施設・ホームステイ施設としての利用の拡大。
3. 米作り等体験農園の普及と地域産物の加工・販売、郷土料理の普及。
4. フィルムコミッションの利用促進。
5. 生きもの・環境保全活動の実施。
6. 施設・設備の維持管理、補修の実施(母屋の屋根補修、長屋門屋根補強等)。
7. 平群ツーリズム協議会と連携した地域活性化活動。

・体験農園 in 岩名

NPO、農業者、農業指導者、千葉シニア自然大学の協働による運営を継続する。

1. 都市部の遊休農地を活用した「農」のある暮らしの提案。
味噌づくり講座、勉強会など「作って食べる」を意識した付属イベントの開催。
2. 親子向け農育・食育推進活動の継続。
3. 千葉シニア自然大学受講生へ農業実践の場の提供。

・千葉シニア自然大学

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、4月からの一斉開講から本科、専攻科などのコースごとに5月中旬から6月初旬に延期してスタートすることとします。

本校は、千葉の里山里海の自然・地球・天文・健康づくりについて座学、野外活動を通じて学び、この機会を通じて、何時までも元気で社会とつながるための人づくり活

動。併せて健康長寿の社会づくりに寄与することを目標に運営している。

なお、ここ数年にわたり千葉県、千葉市、船橋市教育委員会の後援を得る事が出来ており、受講生の募集などを通じて、この事業を広く社会に知ってもらうことを目指すものである。今後、機会があれば後援団体の拡充を目指す。

1. 本科・専攻科の充実と円滑な運営。
2. 本校の同窓会(房総自然の会)との連携及び広く県民に周知するための説明会や公開講座の開催。
3. 卒業生で組織する「古民家ろくすけの会」との連携による過疎地域の活性化の実践。
4. 佐倉市岩名地区に開設した「体験農園 in 岩名」における農業実践。
5. 千葉自然学校の会員校と連携した自然体験活動指導者(NEAL リーダー)としての活躍の場づくり。
6. 事務局スタッフの後継者育成。

■ヤックス自然学校事業(株式会社千葉薬品受託事業)

企業の社会的責任の一環として、社会の動きを素早くキャッチし、安心安全で楽しい自然体験活動を継続的に実施。

1. 年間を通じて魅力あるプログラムを実施し、参加者数延べ3,800人、会員登録者数350人、リピーター率50%を目指す。
2. ホームページやSNS等を活用した集客と活動報告の充実。
3. コロナ禍での集客向上及び、ファミリープログラムのニーズの高まりに対応し、ファミリープログラムの充実を図る。
4. NEAL リーダー養成事業の継続(資格取得)と将来、教職員を目指すキャンプリーダー(大学生)の人材育成(人を育てる)。

■総務・広報部

1. ホームページやSNSを活用した情報発信。
2. 新聞社・新聞記者等マスメディアへの積極的な取材依頼。
3. 営業ツールを用いた企業・学校等への訪問営業。
4. 積極的な給付金、助成金等の活用。